

「黒木小学校の黒木鷹踊り伝承活動の取組」

1 学校名

薩摩川内市立黒木小学校

2 学年・人数

小学4年生から6年生（計17人）及び中学生（9人）

3 日時・場所

（1）練習の日時・場所

令和元年7月末～令和元年8月初旬

黒木校区コミュニティセンター

（2）発表の日時・場所

令和元年8月13日（火） 黒木夏祭り

令和元年9月21日（土） 大楠神社での奉納

令和元年10月6日（日） 校区合同秋季大運動会

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事について

（1）黒木鷹踊り（くろきたかおどり）

（2）由来

昔は、上層の武士が行っていた鷹狩りを芸能化したものであり、もともとは、鷹狩りの餌食になった動物たちの霊を慰める踊りであったと言われている。

（3）構成等

すててこ、笠、扇子、鷹を模した道具を持った鷹匠役（男）が器用に鷹を操る様子と笠と着物を身に付け、棒を持って鷹の機嫌を損ねないように餌師（女）が補助する様子を三味線や太鼓の楽曲に併せて踊る。

5 保存会や地域との連携の具体

黒木鷹踊りは27年の歴史がある。数年前までは、黒木小学校児童だけが踊っていたが、校区の伝統芸能の継承を考え、保存会を正式に11年前に立ち上げて活動している。現在小学生4～6年生が20名で活動しているが、踊りの練習は、地元保存会の永野光輝氏や青壮年部の方々を中心に高校生や中学生にも力を借りて、踊りの指導していただいている。中学生が小学生に黒木の伝統をつなぐ踊りである。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

学校と地域が連携協力しながら黒木鷹踊りを継承していくために、学校に「黒木鷹踊り保存会」事務局が置かれており、継続して地域と連携して鷹踊りを伝承していける態勢を整えている。また、黒木小学校の小学生による地域塾「黒木地域興しキッズ隊」を結成し、鷹踊りの伝承活動を取組の一つに位置付けている。

7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

【4年生児童】

ぼくは、今年初めて鷹踊りを踊りました。中学生に教えてもらいました。最初はうまくおどれなかったけど、少しずつおどれるようになりました。みんなに「うまくなったね」と言われてとてもうれしかったです。

【5年生児童】

4年生の時よりうまくおどれるようになりました。来年は6年生なので、6年生や中学生のようにしっかりとみんなに教えられるようにがんばります。

【6年生児童】

私は3年間鷹踊りをおどってきました。最初は夏祭りや大楠神社での奉納など、人の前でおどるのはとてもはずかしかったけれど、だんだん慣れてきて、今では堂々と踊れるようになりました。来年は中学生になります。中学生は、自分たちとはちがって、踊りのなめらかさや姿勢がとてもいいです。そんな踊りができるようにがんばりたいです。そして、今の中学生のように、下の学年が上達できるようなアドバイスをしていけたらいいなあと思います。

がんばります！

【教職員】

今年黒木小に赴任して、初めて「黒木鷹踊り」に関わりました。平成に入ってからこの踊りということで長い歴史があるというわけではありませんが、地域や保護者の方々がとても大切にされている踊りだということが分かりました。夏休みの練習では、中学生や高学年の子供たちが初めて経験する4年生にやさしく教える姿が見られ、子供たちもこの踊りを大切にしていることや後輩たちに鷹踊りを引き継いでいこうという気持ちをもっていることが分かりました。

練習や着付けには保護者や地域の方が携わってくださいます。指導には保護者、地域の方があたってくださいます。みんなの熱意が伝わります。夏祭りや神社の奉納、運動会では、地域の高齢者の方々も大変喜んでくださいます。この鷹踊りが地域の絆を深める役割を担っているのだと強く感じました。わたしもそんな鷹踊りを守り続けていくお手伝いができたらと思います。

【保存会・指導者】

今後も黒木に住む若い人たちに「黒木鷹踊り」を継承して欲しい。踊り子は、若さを発揮して、失敗しても堂々と弾むような躍動感のある踊りを見せて欲しい。